

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 8 月 11 日 (2005.8.11)

【公表番号】特表 2001-518886(P2001-518886A)

【公表日】平成 13 年 10 月 16 日 (2001.10.16)

【出願番号】特願 平 10-542285

【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 K 7/48

A 6 1 K 7/00

A 6 1 K 9/107

【F I】

A 6 1 K 7/48

A 6 1 K 7/00 N

A 6 1 K 9/107

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 11 月 26 日 (2004.11.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成16年11月26日

特許庁長官殿



1. 事件の表示

平成10年特許願第542285号

2. 補正をする者

氏名(名称) ヘンケル・コマンディットゲゼルシャフト・アウフ・
アクチエン

3. 代理人

住所 〒540-0001
大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号 IMPビル
青山特許事務所
電話 06-6949-1261 FAX 06-6949-0361

氏名 弁理士 (6214) 青山 葆



4. 補正対象書類名 請求の範囲

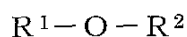
5. 補正対象項目名 請求の範囲

6. 補正の内容
別紙の通り

(別 紙)

請 求 の 範 囲

1. 化粧用油または脂肪成分、親水性乳化剤および親油性共乳化剤を含有するラメラ性の液体結晶相を持つ水中油型エマルジョンであって、用いる親油性共乳化剤が、一般式：



[式中、 R^1 は20～30個の炭素原子を含有する第1級の直鎖アルキルまたはアルケニル基であり、 R^2 は水素である]

で示される脂質であることを特徴とする水中油型エマルジョン。

2. ベヘニルアルコールが、油相全体を基準に20～80重量%の量で、親油性の共乳化剤として存在することを特徴とする請求項1に記載の水中油型エマルジョン。

3. 親水性乳化剤が、8～18のHLB値、即ち、式： $HLB=0.2 \times (100-L)$ [式中、Lは分子中の親油性アルキル、アルケニルまたはアシル基の重量%である]に従って計算されるHLB値を有するイオン性または非イオン性の乳化剤であることを特徴とする請求項1または2に記載の水中油型エマルジョン。

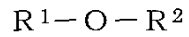
4. 損傷した皮膚の表皮脂質構造の秩序およびラメラ性を回復させるための、化粧用油または脂肪成分、親水性乳化剤および親油性共乳化剤を含有するラメラ性の液体結晶相を持つ水中油型エマルジョンの製造のための親油性乳化剤としての、一般式：



[式中、 R^1 は20～30個の炭素原子を含有する第1級の直鎖アルキルまたはアルケニル基であり、 R^2 は水素である]

で示される脂質の使用。

5. 親水性乳化剤および親油性共乳化剤を使用して、ラメラ性液体結晶相を含有する化粧用油または脂肪成分の水中油型エマルジョンの製造方法であって、親水性乳化剤を含有してよい水相を、一般式：



[式中、 R^1 は 20～30 個の炭素原子を含有する直鎖のアルキルまたはアルケニル基であり、 R^2 は水素である]

で示される少なくとも 1 つの脂質を親油性共乳化剤として含有する脂肪相と緊密に混合することを特徴とする方法。